

学力向上について

－令和3年度全国学力・学習状況調査結果－

- 1 実施日 令和3年5月27日（木）
- 2 対 象 小学校6年生（1,709人）、中学校3年生（1,732人）
- 3 教 科 国語、算数・数学
- 4 内 容 教科に関する調査（出題範囲は、調査する学年の前学年まで
質問紙調査）

5 結 果

(1) 全国との差

小6	国語	算数
鈴鹿市	64	70
三重県（公立）	64	69
全国（公立）	64.7	70.2
R3 全国との差	-0.7	-0.2
H31 全国との差	0.2	-0.6

中3	国語	数学
鈴鹿市	61	56
三重県（公立）	63	58
全国（公立）	64.6	57.2
R3 全国との差	-3.6	-1.2
H31 全国との差	-3.8	-2.8

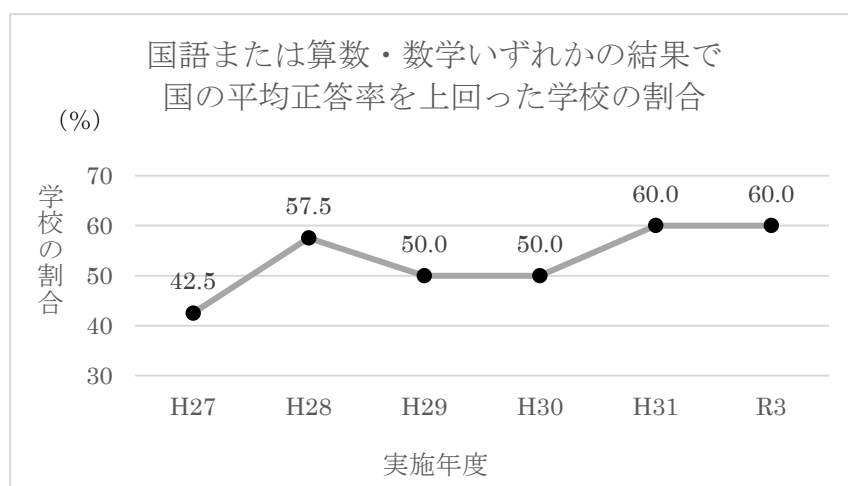
※ 県、市の結果については、H29年度から小数点以下を四捨五入した百分率の整数値で公表されている。

- 小学校算数、中学校数学では、年々全国平均値との差が縮まってきている。
- 中学校では、国語、数学ともに平成31年度の結果より、全国平均値との差を縮めたが、依然差がある。
- 中学校国語は、実施された教科の中で最も全国平均値との差が開いた教科である。

【質問紙調査より】

- 家庭学習の時間とゲームの時間が課題である。

(2) 経年推移 (H27年度～R3年度) 小学校 (30校) 中学校 (10校)



※ 平成31年度からA問題（知識）とB問題（活用）が一体化されたため、経年変化については、B問題と比較検証している。

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症にかかる学校教育への影響等を考慮し実施されなかった。

- ・ 全体的な傾向としては、少しずつではあるが、国語または算数・数学のいずれかの結果が国の平均正答率を上回った学校の割合が増えている。

6 課題改善のための取組

- ・ 学力調査の結果分析から、本市の共通重点取組として、「①学習指導要領に基づいた授業改善②臨時休業中における学習状況の定着（学び直し）③校内研修の充実など、組織的な取組④中学校区での連携強化と共通取組⑤読書活動の充実⑥家庭学習の充実」を挙げ、校長会等で指示。
- ・ 各学校の授業研究に指導主事を派遣し、重点取組に基づいて指導・助言。
- ・ 中学校区単位で管理職との面談を実施し、中学校区の課題の共有と課題の克服に繋がる下半期における具体的な改善方策について協議。
- ・ 学力向上プロジェクト会議を開催し、学校全体で組織的に取り組む体制づくり、来年度の全国学力・学習状況調査に向けた取組について協議。
- ・ 全中学校区での組織的な授業改善を推進するため、鳴門教育大学との連携推進。
- ・ 学習指導要領に基づいた授業改善を推進するため、国の調査官が招聘される県主催の授業改善研修会を鈴鹿市（神戸中学校）で開催し、各校から学力向上担当者等が参加し、研修を深める。
- ・ 情報活用能力や論理的思考力を育成するため、1人1台端末を有効に活用した授業方法の研究推進。